参考資料２

提言の内容について（２月会議の発表内容）

協議テーマ：	**こどもをとりまく社会教育のあり方について** **―学ぶ喜びと居場所のために―**
協議の視点：	①地域におけるこどもの学びと居場所 ②外国にルーツを持つこどもの学びと居場所

提言をまとめるにあたり，令和７年２月の会議では「こどもの学ぶ喜び」と「居場所」について意見交換を実施。内容は下記のとおり。

１．地域グループ発表内容

（１）こどもの学ぶ喜び

- 様々なこどもたちが，いろんなやりたいことができる，体験できるという選択肢がある場所が必要。
- 実際に何がやりたいのかというニーズ把握が必要。
- こどもたち＝「支援される対象」とは別の視点が必要。
- 個々の力や個性を引き出せる大人がいる場所が必要。
- こどもたちがマイペースで活動でき，安心できるところや，見守る大人がいるところ，こどもたちの行動を否定しない環境が必要であり，結果として様々な刺激を受け，失敗もしながら，こどもたち自身が成長を感じられるような場につながるのではないか
- こどもたちのやりたいことができたり，こどもたちが行動するまで待ったり，自分のやりたいことがわからない子にはサポートしたりといった姿勢が必要。そうすることで多様な属性のこどもの参加につながるのではないか。
- 「家庭教育」，「親への支援」について，夏休み等の長期休暇で支援学校等に行けない場合に行政から情報提供したり，親の居場所についても考えたりすることが必要ではないか。支援学校や施設での学びと，家庭教育の双方をしっかりやっていかなければいけないと思う。

（２）居場所

- 安心感が持てる空間づくりが必要。多世代・多文化・多国籍のいろんな人たちがいる，誰でもきてよい場所が必要ではないか。安心できる大人への相談や，他者との交流につながるかもしれない。
- こどもの自主性を否定しない場所，１人でふらっと行ってもよい場所が必要。
- 食べ物があるとよいかもしれない。こども食堂や，習い事も居場所になり得る。
- 涼しい・暖かいといった過ごしやすさや，交通費の問題もあるため，放課後にふらっといけるような場所が中学校単位であるとよいのではないか。（児童館や商業施設，

こども食堂，市民センター等）

- 居場所を地域ボランティアに運営してもらうことで，お兄さん，お姉さんに話を聞いてもらうなど，異年齢・多種多様な人々の交流の場になるかもしれない。

２．外国グループ発表内容

（１）こどもの学ぶ喜び

- 外国にルーツを持つこどもの学びを支える人材をどう確保していくのかということについて，場合によっては日本語支援教育の資格にもつなげていけるのではないか。社会教育における取組にもなり得るのではないか。
- 異文化交流（外国にルーツを持つこどもが日本を知る/日本のこどもが外国の文化を知る）ことが，こどもたちの将来につながるのではないか。音楽，芸術，伝統文化等。教材や本，スペース等を整えていく必要がある。
- ヒアリング先団体等が持っている，外国にルーツを持つこどもの学びを支援する経験やノウハウを，市民センター等に広げていく取組が必要ではないか。
- 国籍を気にしない，共感を持つ，一緒に学ぶ楽しさを体験する等の意識や理解が必要。

（２）居場所

- 日本語を支援している人の周りに人が集まり，居場所になっていくのではないか。受けとめてくれる人が必要。
- 駄菓子屋や本屋，マクドナルド，スターバックス等，こどもたちが集まりそうな場をどのように活用できるかという視点が必要ではないか。
- リアルな場も必要だが，オンラインの場も有効ではないか。
- 「居場所」は日本的な概念ではないのか。外国にルーツを持つ人たちに「居場所」がピンとくるのか，利用しやすいものなのか検討する必要があるのではないか。
- 「居場所」が外国にルーツを持つ人たちになじみのないものだとしても，安心感の持てる場所が必要といった共通性は見出せるのではないか。

３．まとめ

（１）地域グループ

- いわゆる「居場所」に焦点を当てている。（安心感/こどものやりたいことができる場所/何もしなくてもよい場所）
- 市民センターの活用に注目している。

（２）外国グループ

- 「つながり」に焦点を当てている。
- ノウハウの共有やオンラインの活用に注目している。